

平成 26 年度事務事業評価

# 外部評価報告書

(評価対象：平成 25 年度実施事務事業)

平成 26 年 9 月

みよし市行政評価委員会

## 1 はじめに

国が発表する経済報告によると、景気は緩やかな回復基調が続いているとされており、みよし市においては、平成 20 年のリーマンショックに端を発した景気の悪化による税収の落ち込みも除々にではありますが回復傾向が見られます。しかし、その一方で少子高齢化の進展に伴う介護・医療費の増加など避けられない問題も多く、他の自治体と同様、より効果的・効率的な財政運営が求められています。

行政評価の取り組みについては、その必要性、重要性から多くの自治体で進められており、みよし市においても、平成 18 年度からすべての事務事業を対象とした「事務事業評価」とその上位にあたる「施策評価」を一体的に実施してきました。また、平成 22 年度には、行政内部で行った評価を外部からの視点において点検・検証する行政評価委員会が設置され、当委員会は評価の信頼性を高め、より市民目線に立った行政運営に努めています。

本報告書は、みよし市が昨年度に実施した事務事業の中から評価対象事業を選定し、担当課へのヒアリングを通して私ども行政評価委員会の評価結果をまとめたものです。

今後、この報告書が行政運営の改革、改善に寄与し、市の進める総合計画の実現の一助となれば幸いです。

みよし市民に対する行政サービスが不断に改善されていくことを期待しております。

### みよし市行政評価委員会

会 長	村 松 幸 廣	(愛知大学経営学部教授)
副 会 長	望 月 恒 男	(愛知大学経営学部教授)
委 員	後 藤 眞 治	
委 員	鈴 木 豊 實	
委 員	野々山 幸 隆	
委 員	原 田 基 實	

## 2 外部評価の概要

### (1) 外部評価の目的

事業の実施主体である行政職員による内部評価だけでなく、外部の評価を加えることで、評価の透明性を高め、その必要性や効率性をより客観的に評価することを目的としています。

また、評価を通じて行政職員の意識改革を促し、抜本的な行政改革やコスト削減を促進させる役割も担っています。

### (2) 外部評価対象事業の選定

市総合計画と連動されている行政評価の施策・事務事業体系における22の施策を前半と後半に分け、今年度と来年度の2年間で評価を行うこととしました。

今年度は平成25年度に実施した評価対象となる516事務事業のうち、前半11施策の285事務事業から10事務事業を選定しました。

なお、選定にあたっては、法定受託事務及び、自治事務のうち法令などにより対象や事務の方法が定められている事務事業は評価の対象から除きました。

●外部評価対象事業一覧

	事務事業名	担当課	行政評価施策体系	内部評価
1	花苗配布事業	みどりの推進課	緑に包まれ、水に親しむ、快適で美しいまち	改善
2	記念樹配布事業	みどりの推進課	緑に包まれ、水に親しむ、快適で美しいまち	改善
3	環境美化推進事業	環境課	環境と人にやさしいまち	改善
4	なかよしサロン事業	高齢福祉課	みんなで助け合える福祉のまち	維持
5	予防接種事業	健康推進課	生涯健康で安心して暮らし続けられるまち	維持
6	シルバー人材センター補助事業	高齢福祉課	生きがいを持って楽しく暮らせるまち	維持
7	サンアート維持管理事業	教育行政課	文化・芸術に親しみ、育おまち	改善
8	カヌー競技推進事業	スポーツ課	生涯スポーツができ、健康で元気なまち	改善
9	道路安全施設設置事業	都市整備課	誰もが安心して出かけられるまち	維持
10	防災意識普及啓発事業	防災安全課	地域力を高めて安全で安心して暮らせるまち	維持

### (3) 外部評価の進め方

6人の委員が3人ずつ2グループに分かれて、それぞれ5事業について事業概要のヒアリングを行いました。事務事業担当課が作成した事務事業目的評価表（1次評価）などの資料に基づいて、1事務事業につきおよそ30分のヒアリングから得られる情報を基に評価を行いました。

日付	内容
6月9日(月)	評価方法の説明 評価対象事業の選定
7月7日(月)	評価対象事業のヒアリング 評価シート作成
8月18日(月)	評価結果の最終調整 外部評価報告書の作成
9月29日(月)	市長へ外部評価結果を報告

### (4) 評価の基準

行政が税金を投入して実施することが妥当か（妥当性）。事業を廃止・休止した場合に市民が影響を受けるか（有効性）。サービスを低下させずに総事業費を削減できないか。また、外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか（効率性）。受益者負担は適切か（公平性）。以上4つの項目の評価を行い、今後の方向性を総合評価しました。

### 3 評価結果

	事務事業名	事業概要
1	花苗配布事業	潤いのあるまちづくりを目指し、行政区で行われるイベント等に合わせて各世帯に花苗の配布を行う。
2	記念樹配布事業	結婚、出生、新築等人生の節目に記念樹の配布を行い、緑化意識の高揚を図る。
3	環境美化推進事業	環境美化並びに快適な環境づくりに対する意識の高揚を図り、ごみの減量化・資源化を推進していく。
4	なかよしサロン事業	在宅の高齢者が地域社会の中で自立した生活を安心して送ることができるよう、健康チェック、生活指導・日常動作訓練の基本サービスなど各種サービスを実施する。
5	予防接種事業	病気を予防し感染症を拡大させないために、予防接種法に基づき定期予防接種を実施するとともに、任意接種についての助成を行う。
6	シルバー人材センター補助事業	高齢者に安全で働きやすい就業の場を提供し、老後の生活の維持を図ることを目的に、シルバー人材センターの行う事業に対し補助金を交付する。
7	サンアート維持管理事業	指定管理者制度を活用し、民間企業による文化センターサンアートの維持管理を行うとともに、老朽化による大規模改修を計画的に実施する。
8	カヌー競技推進事業	わかしゃち国体を契機として整備されたカヌー競技場を有効活用し、カヌー競技を通じた青少年健全育成とカヌースポーツの振興を図る。
9	道路安全施設設置事業	地域からの要望に沿いながら、カーブミラー、道路照明等を設置し、交通安全に努める。
10	防災意識普及啓発事業	防災講演会、防災リーダー養成講座の開催、防災マップの作成を通じて市民の防災に対する意識を高めるための啓発を行う。

行政評価委員会の意見	今後の事業の方向性
市民一人ひとりの緑化に対する意識高揚を図るため必要な事業であるが、年1回の配布では効果に疑問が残る。委託内容を見直し、限られた予算を有効に活用し、春・秋の年2回の配布を検討していただきたい。	改善 (見直して実施)
事業の目的は十分に理解できるが、市民の受取率が低く、開始から40年以上経過していることもあり市民ニーズに合っていないものも見受けられる。今後は配布方法を含めたうえで、配布物、配布対象者について検討していただきたい。	縮小 (見直して実施)
事業内容が多岐にわたり、環境美化には有効な事業である。今後は事業の推進とともに、市民の環境美化意識の向上と実践活動を活発にするために、より一層のPR活動を実施していただきたい。	現状維持 (継続して実施)
高齢者の増加に伴い利用者は年々増加していくものと思われる。事業の必要性は十分に認められ、今後も継続して実施すべき事業であるが、将来的にはサービス内容や受益者負担の見直しも必要になってくるとと思われる。	現状維持 (継続して実施)
事業の必要性は十分にあり、今後も継続していくべきである。接種率の低いものも見受けられるので接種率の向上に努めるとともに、市独自で助成を行う任意予防接種についても市民への周知を積極的に行っていただきたい。	現状維持 (継続して実施)
高齢者の生きがい、就業機会の創出のために必要な事業である。今後は更なる会員の就業機会の確保・向上、全体の意識改革に努めていただきたい。	現状維持 (継続して実施)
指定管理者による効率的な維持管理を期待するとともに、市民が利用しやすい施設となるよう大規模修繕については計画的に行っていただきたい。また、ふるさと会館の利用率は低い状況であり、将来的な在り方について検討していただきたい。	現状維持 (継続して実施)
事業の目的は十分に理解できるが利用者が少数であり、費用対効果については疑問が残る。今後は「カヌーのまちみよし」としてより多くの市民がカヌーにふれあえるよう事業の見直しを図っていただきたい。	改善 (見直して実施)
道路利用者の交通の安全を確保するために重要な事業である。今後は成熟したまちづくりのために安全施策を推進するとともに、市民ニーズの高い事案から早急に実施していただき、事業の一層の充実をお願いしたい。	現状維持 (継続して実施)
市民の防災に対する意識はまだ高いとはいえない。防災マップを作製、配布で良いとはいえず、防災訓練時に避難訓練を取り入れるなど市民の防災に対する意識を高めていっていただきたい。	改善 (見直して実施)

#### 4 評価を終えて

事務事業ごとにその活動業務が特定の業務に特化したものと、幅広く業務を行っているものとさまざまであり、評価をすることが難しい事務事業もありました。市の内部では毎年500を超える事務事業の評価を実施しており、その業務量は多大であると思われます。事務事業を細分化し、事業数を増やしていくことが必ずしも良いとは言えませんが、細分化することによりその事業を的確に評価できるものは細分化し、また逆に統合しても今までどおり評価が行えるものは統合し、評価にかける業務量を増やすことなく、効果的に行えるよう事務事業全体の見直しを進めることも必要であると思います。

事務事業評価表の記載内容については、以前より改善されてきているものの事業の概要等説明不足なものも見受けられました。市民への説明責任を念頭におき、より分かりやすい内容となるよう検討するとともに、職員は行政評価の重要性を再認識していただき、検証・評価の過程を通じて、常に市民の視点に立ち、前例踏襲主義となることなく、積極的に改革・改善していただきたいと思っております。